



第2740地区 創立/1990年9月29日 認証/1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長:岡 光正 / 副会長:芥川 圭一郎 / 幹事:馬渡 圭一



2025~2026年度クラブスローガン

例会に行こう

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会:委員長 / 橋口 佳周 副委員長 / 倉科 聰一郎

委員 / 西村 浩輝、四元 清安、崎山 信幸、田中 啓輔、澤田 磨

本日の出席率 81.25%: 会員数 54名・出席 29名・欠席 9名・出席規定免除会員 10名・ビジター 2名
 前回の修正出席率 81.48%: 出席 25名・メークアップ 3名



会長挨拶 / 岡 光正君



皆さんこんにちは。本日は、国際ロータリー第2740地区ガバナー石坂和彦様、第6グループガバナー補佐前田眞澄様、地区幹事中島幸利様、随行者として、唐津RC松尾繁樹様、同じく染谷悦之様、お忙しい中ご来訪頂き誠に有難うございます。

ます。この後、石坂ガバナーには卓話を頂きます。宜しくお願ひ致します。

今日は「最低賃金」の話をしたいと思います。皆様方もご承知の通り、最低賃金が過去最大の上げ幅で全国平均が1,121円。長崎県は78円上がり1,031円となり12月1日から適用になります。皆様方はこれをどう捉えていますか。やっと1,000円超えたかと思う方もいれば、経営に何らかの影響を受けると思う方もいると思います。上がっても1,031円、何とか受け入れられる範囲だと思います。しかし、政府は2020年代に全国平均時給を1,500円にするという目標を掲げています。最低賃金が1,500円に上がると話は別です。では、いつ1,500円になるのか、顧問の社労士からは、過去100円上がるのに5年掛かっていたのが、ここ2年で100円以上上がっている。これで行くと5年後には1,500円になる覚悟ですぐ対応できる準備をするようにアドバイスを受けました。

日本商工会議所の小林会頭は「最低賃金目標に懸念」と次のようにコメントを出しています。2020年代に、最低賃金を全国平均1,500円にするという政府の目標を巡り、引き上げの速度に懸念を表明した。現行のペースなら地方企業の収益が圧迫され「政令指定都市以外の地方で(商業インフラの)破綻が起きる可能性がある」と述べた。合わせて日商が3月に公表した中小企業調査では、1,500円に引き上げが行われた場合に、15.9%の企業が「廃業や休業などを検討」して

いると答えた。こうした状況を念頭に「地方企業が担っている商業インフラに穴があく懸念がある」と語っています。

私は大変危機感を抱いています。人件費が5年後1.5倍。例えば一般事務を募集するとします。今の相場は18万~19万円、5年後は27万~29万にしないと雇用できなくなります。それに伴い、社会保険加入義務の「106万の壁」が解消され、短時間労働者が減り人手不足に拍車がかかり、人を雇用しての経営が成り立たなくなります。この様な状況の中で、売上もしくは利益を5年間で1.5倍に上げる事は、頭で理解しても簡単には行きません。

さて、最低賃金が1,500円になったら、5年後の中央クラブの年会費がいくらになるか、いくらだったら運営できるのかを、私なりにシミュレーションしました。例会費と事務局員費は間違えなく1.5倍。RIの人頭分担金にしても、10年前は年間1人55\$でしたが、本年度は82\$、3年後は93\$に確定しています。もし、私の意見が通れば値下げをお願いしたい。その他、人件費の高騰と物価高の影響で、今行っている事業費も上がり、単に今の年会費21万の1.5倍では済まないと思います。先月訪問した、大阪RCの年会費が38万でした、恐らくそれに近い年会費でないとロータリー活動が成り立ちません。今の大坂は佐世保の5年後だと思います。この事に気付かされた、大阪RCメークアップ推進事業は、価値ある事業だったと思っています。

これから、「ロータリー活動」も「会社経営」も5年後をしっかりと見据え、危機感を持ちながら、会費が上がっても「ロータリーの魅力」と「価値」を明確に伝えられる、クラブでありたいと思っています。この後、石坂ガバナーから「地区の方針」と「ロータリーの魅力と価値」についての卓話を頂きます。卓話が終わったら、「ロータリアン」と語る会を予定しています。本日も最後まで宜しくお願ひ致します。

(^_~) ニコニコボックス

国際R第2740地区第6Gガバナー補佐 前田 真澄様

本日は石坂ガバナー公式訪問の随行としてこの席につかせて頂いておりますが、合わせまして佐世保中央RCの会員として第2740地区ガバナー 石坂和彦様並び同地区幹事 中島幸利様、そしてご同行でいらっしゃいました唐津RCの皆様のご来訪を心より歓迎いたします。本日はよろしくお願ひ致します。

岡 光正会長・芥川 圭一郎副会長・馬渡 圭一幹事

本日は国際ロータリー第2740地区ガバナー 石坂和彦様、ガバナー補佐 前田真澄様、地区幹事 中島幸利様、随行者で、唐津RC 松尾茂樹様、同じく染谷悦之様にお越しいただいております。

お忙しい中でのご来訪誠にありがとうございます。さて本日は、石坂 和彦ガバナーより地区の方針や活動内容をお話いただける貴重な機会となります。またロータリアンと語る会も会員一同楽しみにしております。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

芥川 圭一郎君

昨夜、さが桜マラソン 2026 をポチッとしてしまいました。川上君 引率をお願いします。

藤井 寿人君

わが社の近くにある白岳神社ですが、鳥居の製作を依頼していただき、本日完成しました。9月29日の大祭までに完工であったため、無事に間に合うことができました。なかなか鳥居を鋼鉄製で製作する事は、滅多にないと言うか、初めての製作でした。が、祭事に携わることができて、光栄であったためニコニコします。

本日の合計	46,000円
本年度の累計	510,000円



ガバナーとの懇談会の様子

本日の卓話

◆ ガバナー公式訪問 ◆

国際ロータリー第2740地区
ガバナー石坂 和彦様

地区の方針、国際ロータリーの動向、そしてロータリー活動の意義について。



I. 佐世保中央ロータリークラブへの評価

石坂ガバナーは、今回の佐世保中央RC訪問が51クラブ目の訪問であると述べられました。訪問に同行した中島地区幹事からは、クラブの活動報告が「よくできている」、またクラブに対して「完璧すぎた」ため質問がない、という驚くべき評価があつたことが紹介されました。

ガバナーは、佐世保中央RCが「ロータリーに対する情熱」を伝えきっていると評価し、ロータリーを1905年に創立したポール・ハリス氏が「このようなクラブを作りたかったのではないだろうか」と思うほどの感銘を受けたと述べました。

具体的には、以下の点が特に優れていると強調されました。

- ・「例会に行こう」という基本方針。
- ・厳格な例会開催とドレスコードの順守。
- ・健康を重視し、それを大前提とした企業の成長を目指していること。
- ・ベテラン、中堅、若手が響き合い、「一円融合」の素晴らしいクラブ作りがなされていること。
- ・会員増強がうまくいっていること（会員数54名）。
- ・親睦をベースに、社員や家族（奥様のコーラスを含む）を巻き込み、世のため人のための活動を行っていること（公共イメージの向上）。

II. 国際ロータリーの方針と地区テーマ

ガバナーは、国際ロータリー会長がランチエスコ・メッシーナ氏に急遽交代した経緯に触れ、メッシーナ会長メッセージの根幹にある「ユナイト・フォグッド」(Unite for good)」の重要性を伝えました。

この「ユナイト」を達成するための3つの言葉として、「確信 (Innovation)」、「継続性 (Continuity)」、「パートナーシップ (Partnership)」**を掲げました。ロータリーの目的や理念は変えてはならないが、ロータリーの物語は毎年塗り替えていかなければならない、と述べ、確信と継続性は一つであるという考えを示しました。

また、縦糸と横糸が織り合わさる様子に例えて、「紡ぐ (つむぐ)」という言葉を大切にし、ロータリーの歴史を単なる点としてではなく、現在の姿勢と繋がる「面」として捉えるべきだとしました。

さらに、目標を意味する「ゴールズ (Goals)」のSに注目し、ゴールは一つではなく、クラブごと、ロータリアン一人ひとりの胸の中にそれぞれのゴールがあってよい、と述べました。

III. 重点分野と世界の課題

ガバナーは、ロータリーが取り組むべき主要な課題と活動について説明しました。ロータリー財団と米山記念奨学会：世界中で13億人が食糧難にあり、ロータリー財団への支援は重要です。米山記念奨学事業は、30年後を見据えた人材育成であり、131カ国から奨学生を受け入れており、日本への理解を深める上で重要であると強調しました。

・ポリオ撲滅活動：ガザやアフガニスタン、パキスタンなどで未だに感染者が出ており、ポリオには治療法がなく、ワクチン投与による予防が唯一の道であると説明しました。また、ポリオワーカーは紛争や誤解の中で過去1年間で25人もの犠牲者を出しており、その歩みを止めるわけにはいかないとして、継続的な支援を訴えました。

・環境破壊と異常気象：気候変動や環境破壊により、このままでは北極海の氷が2027年には全て溶けてしまうとも予測されている中、ロータリアン130数万人が力を合わせ、「コツコツと」活動していくしか道はないと訴えました。

・ウェルビーイング：心身ともに健康であることに加え、社会的に健康でなければならないというウェルビーイングの考え方を提倡しました。誰も傷つかず、誰も傷つけない社会作りこそがロータリー活動そのものであると述べました。

IV. ロータリアンとの対話

ガバナーはロータリアンとの対話の中で、クラブ運営に関する具体的なアドバイスも提供しました。

・会員増強：昔の「昼飯食い来い」は通用せず、入会を勧誘するには、結婚の**「プロポーズ」の時のように、「あなたが入ってくれないともう俺もダメになる」というほどの情熱**が必要だと語りました。

・ガバナーの資質：ガバナーのパワーの源泉は、指山氏のような「バカになれるかどうか」にあるとし、佐世保中央RCの真剣さ、誠実さ、真面目さを評価しました。

・パスト会長の役割：パスト会長は若手に任せると引退するのではなく、ベテラン層が若い世代と響き合うよう、引き続き積極的に協力することが必要だと強調しました。

・ガバナーを目指すきっかけと変化：ガバナーは一度も目指したことないと述べた上で、就任後の変化として、ロータリーのことを考え「眠れない日が多くなった」ことを正直に明かしました。

V. 結びと地区大会

ロータリーの本質は、「温かい心と心の交流」にあると確信を述べました。今、求められているのは、支え合い、織り合い、助け合い、そして分かち合うことであり、ロータリーは楽しくなければならぬと強調されました。

最後に、地区大会のテーマは「若者、世界、希望、平和」であり、10月24日から26日にかけて開催される地区大会への積極的な参加を呼びかけました。

石坂ガバナーは、佐世保中央ロータリークラブが「一円融合」の世界社会を築く上で、「先頭を切って」進むお手本となるクラブであると結び、感謝の言葉を述べられました。



SAA：井上 亮
次回例会 10月9日 12:30～

